

## インターバンクの声（2017年11月2日）

今週後半の一連のイベントの内、まずは10月の米ADP雇用統計とFOMCの声明が発表されたが、ドル円は依然として7/11に付けた114円49銭を上回ることが出来ない。

ニューヨーク市場の朝方に発表されたADP雇用統計は、非農業部門民間就業者数の増加が前月比で23万5千人と市場予想を上回ったが、円売り・ドル買いの反応は20銭ほど。しかし、暫くしてから発表された米ISM製造業景況指数が低調だったことで、ドル円はADP発表前の水準以下まで反落してしまった。

4時間後のFOMC声明で12月の利上げがほぼ確実になったことからドルに買い戻しが入ったが、ADP後の高値には届いていない。

今日の米国時間午後に次期FRB議長の指名発表があるが、予想通りパウエル理事であればドル買いに反応する可能性は薄く、明日の雇用統計もADPで免疫が出来たので、少々の強い数字ではドル買いには反応しそうもない。やはりトランプ大統領のアジア訪問中の発言に注目するしかなさそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。